特集 4

製品固有の環境負荷を低減する取り組み

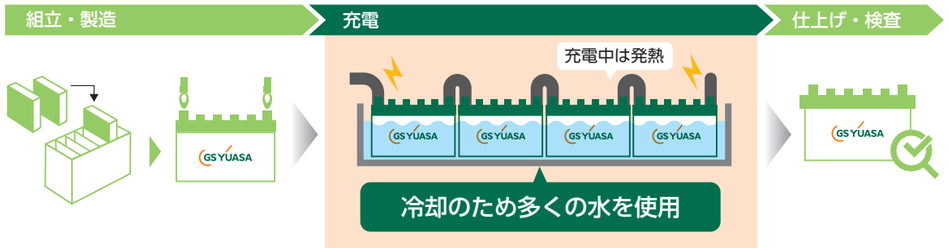
省資源とリサイクルを進めて循環型社会に貢献していきます

課題認識

水使用量の削減

主力製品である鉛蓄電池の充電工程では、電池を冷却するために大量の水を使用しています。一方で、世界的な規模で水資源の不足が懸念されており、当社グループの気候関連シナリオ分析においても、グループが所在する一部の地域で将来の渇水リスクがあるため、水使用量を削減することが重要です。

▼ 当社グループのバッテリー製造工程における水使用



負荷低減への取り組み

鉛蓄電池の充電工程で用いる冷却水は、一定以上の水質基準に適合している必要があります。貴重な水資源の保全や事業リスクの低減化を図るために、水の循環再利用の促進、用水量の削減が重要であると考えています。

2019年度からは、中期経営計画にグローバルでの水使用量削減目標を組み込み、世界各国の生産活動における水使用量の削減に取り組んでいます。

水の循環利用設備

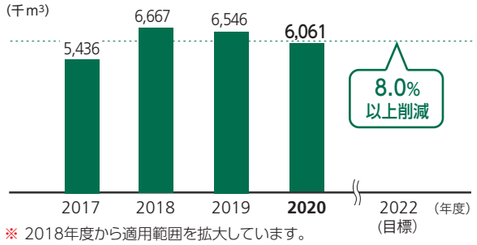
また、生産拠点へ水循環設備を設置し、水の循環再利用を促進しています。

KPI：水使用量

2022年度目標：8.0%以上削減（2018年度比）

2020年度実績：9.1%削減（2018年度比）

▼ 当社グループの水使用量の推移※



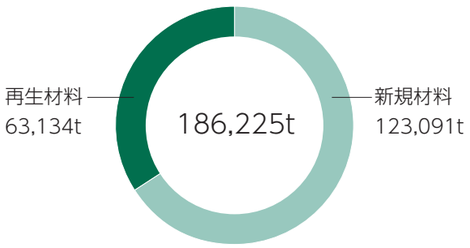
※ 2018年度から適用範囲を拡大しています。

鉛 リチウム 原材料の枯渇

鉛蓄電池の主要原材料である鉛は、リサイクル性に優れており、リサイクル手法が確立されています。循環型社会を実現するために、天然資源の消費を抑制して、使用済み鉛蓄電池のリサイクルを推進することが重要です。

リチウムイオン電池の主要原材料である、コバルトやニッケル、リチウムはリサイクル手法が確立されていないことに加え、需給逼迫が懸念される希少資源です。持続的に活用していくためにリサイクルが重要です。

▼ 当社グループにおける鉛蓄電池の主要原材料※ 使用量（2020年度）



※ 鉛・硫酸・プラスチック

鉛蓄電池

鉛の再生利用率向上に向け、次のような取り組みを実施しています。

- 自動車リサイクル法に基づくバッテリーの回収・リサイクルシステムを通じて鉛を回収
- お客様のもとで使用済みとなった当社製品の再資源化を継続
- 2019年度から中期経営計画に目標を組み込んで再生鉛の利用拡大に注力

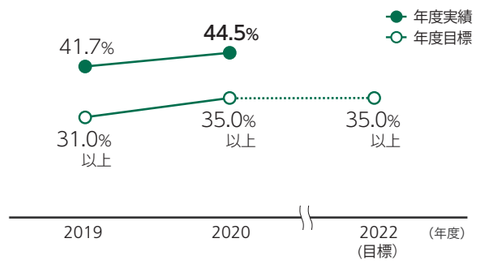
リチウムイオン電池

リチウムイオン電池の回収・リサイクルシステム構築に向け、下記の業界団体に加入・参画しています。

- 一般社団法人電池サプライチェーン協議会（BASC）：電池サプライチェーンの国際標準化や電池エコシステムの構築などに取り組む新団体
- 一般社団法人JBRC：メーカーなどを会員とし、小型充電式電池のリサイクル活動を共同で行う団体

KPI：鉛蓄電池の鉛原材料に占める再生鉛量の比率

2022年度目標：35.0%以上

2020年度実績：44.5%

▼ 当社グループの鉛蓄電池の鉛原材料に占める再生鉛量の比率